

Patent number: JP2000351723
Publication date: 2000-12-19
Inventor: HATTORI KANA; TAKAI TOSHIHIKO
Applicant: NARIS COSMETICS CO LTD
Classification:
- international: A61K7/48; A61K7/00
- european:
Application number: JP19990200787 19990609
Priority number(s):

[View INPADOC patent family](#)

Abstract of JP2000351723

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a skin preparation for external use excellent in safety and useful for the prophylaxis and improvement of skin inflammation, itch, chapped skin and dry skin, by including a specific extract from flower petals.

SOLUTION: This skin preparation is obtained by including (A) an extract from petals of Compositae Helianthus. The ingredient A is obtained by extraction from petals themselves or dried petals using a solvent. It is desirable that a mixed solvent comprising one or more kinds such as ethanol and 1,3-butylene glycol is used as a solvent. The formulating amount of the ingredient A is desirably 0.0001-20 wt.% in terms of 50% 1,3-butylene glycol extract from the petals of Compositae Helianthus. The ingredient A has antiallergic effect such as histamine separation inhibitory effect and contact dermatitis inhibitory effect, therefore the objective preparation for external use is usable as pref. a histamine separation inhibitor or a contact dermatitis inhibitor.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-351723
(P2000-351723A)

(43) 公開日 平成12年12月19日 (2000. 12. 19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	データベース* (参考)
A 6 1 K 7/48		A 6 1 K 7/48	4 C 0 8 3
7/00		7/00	K

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平11-200787	(71) 出願人	591230619 株式会社ナリス化粧品 大阪府大阪市福島区海老江 1 丁目11番17号
(22) 出願日	平成11年 6 月 9 日 (1999. 6. 9)	(72) 発明者	服部 可奈 大阪府大阪市福島区海老江 1 丁目11番17号 株式会社ナリス化粧品内
		(72) 発明者	高井 利彦 大阪府大阪市福島区海老江 1 丁目11番17号 株式会社ナリス化粧品内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 皮膚外用剤

(57) 【要約】

【課題】新規のヒスタミン遊離抑制剤、接触皮膚炎抑制剤を配合することにより、アレルギー反応に起因する疾患を予防あるいは改善することを目的とした、安全性の高い皮膚外用剤及び浴用剤を提供する。

【解決手段】キク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) の花卉抽出物を配合することにより、アレルギー性やアトピー性、接触性などの様々な皮膚炎症や、皮膚のカユミなどの予防・改善作用を有する安全性の高い皮膚外用剤及び浴用剤を得た。

【特許請求の範囲】

【請求項1】キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の花弁抽出物を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【請求項2】キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の花弁抽出物を含有することを特徴とする浴用剤。

【請求項3】キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の花弁抽出物を含有するヒスタミン遊離抑制剤。

【請求項4】キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の花弁抽出物を含有する接触性皮膚炎抑制剤。

【0001】

【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】本発明は、キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の花弁抽出物を含有するヒスタミン遊離抑制剤、接触皮膚炎抑制剤、更にアレルギー性・アトピー性・接触性の皮膚炎症やかゆみなどの皮膚疾患に対する予防並びにその改善に有効な皮膚外用剤及び浴用剤に関するものである。

【0002】

【従来の技術】現在、皮膚かぶれや蕁麻疹、アトピー等の皮膚トラブルで悩む人が年々増え続けているといわれており、中でもアレルギーに係る皮膚トラブルに関しては、特に重要な問題となっている。

【0003】アレルギー反応の機序は、I型～IVに分類されている。I～III型のアレルギーでは、抗原と接触してから十数分で反応の強さが最高になることから即時型アレルギーと呼ばれているのに対し、IV型に分類される反応は、抗原と接触後、反応はゆっくりと進行し最高の強さになるまでに24～48時間程度かかることから、遅延型アレルギーと呼ばれている。

【0004】I型は、アレルギーとしての発生頻度が最も多く、免疫グロブリンE(IgE)抗体が関与する反応である。考えられる疾患としては、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、蕁麻疹などが挙げられる。体内にアレルゲンとなる物質が侵入すると、このアレルゲンに対する抗体(IgE)が作られ、肥満細胞や好塩基球の細胞膜上のIgEレセプターに結合する。再度同種のアレルゲンが侵入すると、肥満細胞や好塩基球の細胞膜上のIgEと結合し、細胞内のヒスタミンやセロトニンなどの活性物質が放出され、種々のアレルギー症状が引き起こされる。

【0005】II型は、自己の細胞膜構成成分や低分子化合物などがタンパク質と結合し、それが抗原となって起こるアレルギーである。補体の関与で一層作用を受けやすくなる。この型に基づく疾患には、自己免疫性溶血性貧血、血液型不適合による血球溶解、薬物アレルギーとしての溶血性貧血などがある。

【0006】III型は、抗原刺激後数時間から数日後に局所に現れる。アルチュス反応が典型的であり、抗原・抗体の複合体が形成され、組織に沈着すると、補体が活性化され、直接組織が障害されたり、多核白血球が集積して局所障害を増強する。この型に基づく疾患は、糸球体腎炎、全身性エリテマトーデス、慢性関節リウマチなどがある。

【0007】IV型アレルギーは接触性皮膚炎とも呼ばれ、抗体は関与せず、T細胞というリンパ球が関与しており、考えられる疾患としてはアレルギー性接触性皮膚炎やアトピー性皮膚炎などが上げられる。体内にアレルゲンが侵入するとT細胞が感作され、再度アレルゲンに接触するとリンホカインと呼ばれる種々の炎症性因子を放出し、反応を起こす。現在、I型～IV型のアレルギーに対し、予防・改善に有効な因子の研究が盛んに行われている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】例えばI型アレルギーの症状は、ヒスタミンを代表とする多数の活性物質が肥満細胞や好塩基球から遊離されるということが大きく関与していることは明らかである。そのような理由から、I型のアレルギーに対する薬としてはヒスタミン受容体阻害薬などが挙げられる。しかしこれは遊離した化学伝達物質が、気管支筋や消化管などの平滑筋、毛細血管、好中球、血小板などに存在するヒスタミンの受容体に作用するのを阻害する薬物であり、対症的治療薬として有効であるが、そのほとんどが合成医薬品で、副作用の点でも問題がある。更に、II～IV型アレルギーに有効な薬剤の開発についても、活発に研究が進められているが、未だ特異的な抗アレルギー剤は見出されていないのが現状である。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決する手段として、本発明者らは抗アレルギー剤として有用な植物の開発をテーマとした。その結果キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の花弁抽出物がヒスタミン遊離抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有し、即時型・遅延型のアレルギーを抑制する作用がある事が見出された。さらに皮膚炎症、かゆみ、肌荒れ、皮膚のかサツキの予防ならびにその改善に有効で、安全性の高い皮膚外用剤及び浴用剤を提供することを以って、本発明を完成させるに至った。

【0010】

【発明の実施の形態】本発明で用いられる植物は、キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の植物で、抽出部位は花弁である。

【0011】本発明で使用するキク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)の抽出物とは、花弁をそのまま或いは乾燥させて、溶媒で抽出したものである。この植物の抽出物を得る溶媒としては、

水、エタノール、メタノール、イソプロパノールなどのアルコール類、グリセリン、エチレングリコール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、ヘキシレングリコール等の多価アルコール又はその誘導体、アセトン、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトンなどのケトン類、酢酸エチル、酢酸イソプロピルなどのエステル類、エチルエーテル、イソプロピルエーテル等のエーテル類などの極性溶媒が挙げられ、これらの1種又は2種以上の混合物を使用することができるが、特に限定はされない。或いは、石油エーテル、*n*-ヘキサン、*n*-ペンタン、シクロヘキサン等の脂肪族炭化水素類、四塩化炭素、クロロホルム、ジクロロメタン、ベンゼン、トルエンなどの非極性溶媒の1種若しくは2種以上の混合溶媒も好適に使用することができる。

【0012】この植物の抽出物を得る溶媒としては、特に限定されないが、エタノール、1, 3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、水の1種若しくは2種以上の混合溶媒が好ましい。

【0013】また、このようにして得られた植物抽出物は、抽出物をそのまま用いることもでき、応用する剤形、形態により乾燥、濃縮、あるいは希釈等を任意に行えば良い。またその効力を失わない範囲内で脱臭、精製等の操作を加えてから配合することもできる。脱臭、精製等の処理手段としては、活性炭カラム等を用いればよく、さらに、これらの抽出物や脱臭、精製物は、これらから溶媒を除去することによって乾燥物とすることもできる。

【0014】本発明のキク科ヒマワリ属 (*Compositae Helianthus*) 花卉抽出物は、抗スタミン剤、接触皮膚炎抑制剤などの抗アレルギー剤としてそのまま利用できるほか、医薬品、化粧品、浴用剤などに添加、配合して用いることができる。医薬品では外用剤に添加することができ、これらの使用方法に応じて、液剤、軟膏、クリーム、ローション、エアゾール剤、パウダー剤、座剤等の剤型にすることができる。また、必要に応じて賦形剤、基剤、乳化剤、安定化剤、溶解助剤、保存剤、芳香剤、着色剤などを適宜配合することができる。さらに他の抗炎症、抗アレルギー性原料と共に用いることによりさらにその効果を高めることもできる。

【0015】本発明のキク科ヒマワリ属 (*Compositae Helianthus*) 花卉抽出物は、そのまま抗ヒスタミン剤、接触性皮膚炎抑制剤などの抗アレルギー剤として利用できる他、化粧品、皮膚外用剤、浴用剤へ配合できる。その配合量としては特に限定するものではないが、各種作用抑制剤、または化粧料の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なるが、キ

ク科ヒマワリ属 (*Compositae Helianthus*) 花卉の50%1, 3-ブチレングリコール抽出物として0.0001~20重量%の濃度範囲が望ましく、特に0.01~10重量%が最適である。配合量が0.0001重量%以下であると、効果が充分ではなく、また、20重量%以上を配合しても効果はほぼ一定である。

【0016】化粧料としては、クリーム、軟膏、ローション、乳液、ジェル、固形状、散剤など任意の剤型とすることができ、化粧水、乳液、美容液、保湿クリーム等の基礎化粧料、日焼け止めクリーム、日焼け止めローション、日焼けオイル、カーマインローション等のサンケア商品、ファンデーション、アイライナー、チークカラー、口紅などのメイクアップ化粧料、洗顔料、ボディシャンプー、ヘアシャンプー等の洗浄料、リンス、トリートメント、ヘアクリームなどの毛髪用化粧料等の用途に使用することができる。その際、本発明の効果を損なわない範囲内で、化粧料に一般的に用いられる各種成分、例えば、油分、保湿剤、ビタミン類、ベンゾフェノン誘導体、パラアミノ安息香酸誘導体、メトキシ桂皮酸誘導体類、サリチル酸誘導体、紫外線吸収剤、植物系天然多糖類、微生物系天然多糖類、動物系高分子、セルロース系半合成高分子、デンプン系半合成高分子、アルギン酸系半合成高分子、合成高分子、水溶性高分子、酸化防止剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、ノニオン界面活性剤、金属イオン封鎖剤、胎盤抽出物、美白剤、抗炎症剤、収れん剤、清涼化剤、皮脂抑制剤、角質剥離・溶解剤、 α -ヒドロキシ酸類等が配合できる。特に、抗炎症、抗アレルギー性原料例えば、アズレン、塩酸ジフェンヒドラミン、*d*1- α トコフェロール及びその誘導体等と共に用いることによりさらにその効果を高めることもできる。

【0017】

【実施例】以下に、製造例、試験例、処方例を挙げて説明するが、本発明がこれらに制約されるものではない。

【製造例】キク科ヒマワリ属 (*Compositae Helianthus*) の花卉100gを30%エタノール水溶液又は50%1, 3-ブチレングリコール水溶液、又は60%プロピレングリコール水溶液、又は精製水1000gに浸漬し、室温にて14日間抽出した後、上清をろ過して抽出液とする。

【0018】

【処方例】本発明に基づき、化粧料・浴用剤の処方例を示すが、本発明はかかる処方例のみに限定されるものではない。

【0019】 (処方例1) クリーム

5

6

<組成>		(重量%)
A	ステアリルアルコール	6.0
	ステアリン酸	2.0
	水添ラノリン	4.0
	スクワラン	9.0
	オクチルドデカノール	10.0
B	1,3-ブチレングリコール	6.0
	ポリエチレングリコール 1500	4.0
C	POE (20)・セチルアルコールエーテル	3.0
	モノステアリン酸グリセリン	2.0
	キク科ヒマワリ属花卉抽出物(30%エタノール水溶液)	0.2
	防腐剤	適量
	酸化防止剤	適量
	精製水	残部

(製法) 精製水にBを加え、70℃に加熱調製する。Aを加熱溶解後、Cと、キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出物、防腐剤、酸化防止剤を加え、70℃に調製する。これを先の*

* 水相に加えて、ホモミキサーにて乳化粒子を均一にして、脱気、濾過、冷却する。

【0020】 (処方例2) 化粧水

<組成>		(重量%)
A	1,3-ブチレングリコール	6.0
	グリセリン	4.0
B	オレイルアルコール	0.1
C	ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノラウリン酸エステル	0.5
	ポリオキシエチレン(15)ラウリルアルコールエーテル	0.5
	エタノール	10.0
	キク科ヒマワリ属花卉抽出物(60%プロピレングリコール水溶液)	1.0
	防腐剤	適量
	精製水	残部

(製法) 精製水に、A、キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出物、を室温にて溶解し、水相とする。エタノールに防腐剤、Cを※30

※溶解し、先の水相に混合可溶化する。

【0021】 (処方例3) 乳液

<組成>		(重量%)
A	ステアリン酸	2.0
	セチルアルコール	1.5
	ワセリン	4.0
	スクワラン	5.0
	グリセロールトリ-2-エチルヘキサン酸エステル	2.0
B	ソルビタンモノオレイン酸エステル	2.0
C	ジプロピレングリコール	5.0
	ポリエチレングリコール 1500	3.0
D	トリエタノールアミン	1.0
	キク科ヒマワリ属花卉抽出物(50%ブチレングリコール水溶液)	1.0
	防腐剤	適量
	香料	適量
	精製水	残部

(製法) 精製水に、C、D、キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出物を加え、70℃に加熱調製する。Aを溶解し、これにB、防腐剤、香料を加え、70℃に調製する。この油相を先

の水相に加え、予備乳化を行う。ホモミキサーにて乳化粒子を均一化した後、脱気、濾過、冷却する。

【0022】 (処方例4) ジェル

7

<組成>

	ジブロピレングリコール
	ポリエチレングリコール 1500
A	カルボキシビニルポリマー
	メチルセルロース
B	ポリオキシエチレン(15)オレイルアルコールエーテル
C	水酸化カリウム
	キク科ヒマワリ属花卉水抽出液
	防腐剤
	退色防止剤
	色剤
	キレート剤
	香料
	精製水

8

(重量%)

7.0
8.0
0.4
0.2
1.0
0.1
1.0
適量
適量
適量
適量
適量
適量
残部

(製法) 精製水にAを均一に溶解させた後、ポリエチレングリコール、退色防止剤、色剤、キレート剤を添加する。ジブロピレングリコールにBを加え、50~55℃で加熱溶解し、これにキク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉水抽出液、防腐*

* 剤、香料を加える。先に調製した水相を攪拌しながらこれに徐々に添加する。最後にCを添加し、中和のため充分に攪拌する。

【0023】 (処方例5) 浴用剤

<組成>

硫酸ナトリウム	(重量%)
炭酸水素ナトリウム	50.0
カルボキシメチルセルロースナトリウム	48.0
キク科ヒマワリ属花卉抽出物(50%1, 3-ブチレングリコール水溶液)	1.0
	1.0
色素	適量
香料	適量

(製法) 上記成分に水を適量加え、均一に混練りし、押し出し造粒を行い、乾燥させ、篩処理する。

【0024】

【試験例】(試験1) ヒスタミン遊離抑制試験

ヒスタミン遊離抑制試験IgE抗体が関与するアレルギーにおいて、その特徴的な反応として肥満細胞からの化学伝達物質(ヒスタミンなど)の放出が行われ、その結果アレルギー症状が引き起こされる。従って、ヒスタミン遊離を抑制するような物質はアレルギー性炎症疾患の予防及び改善効果が期待できる。本試験では、製造例で得られたキク科ヒマワリ属花卉50%1, 3-ブチレングリコール抽出液について、ラットの肥満細胞からヒスタミン遊離剤であるCompound 48/80にてヒスタミンを遊離させる試験法(J. Soc. Cosmet. Japan, 25(4), P246(1992))に従い検討した。

【0025】(試験方法) 遊離ヒスタミン量の測定は、ウイスター系ラットの腹腔内より採取した肥満細胞浮遊液0.8mlに、試料0.1mlを加え、37℃で5分間反応後、Compound 48/80(終濃度0.04μg/ml)を0.1ml加え、更に37℃で5分間反応させた。氷冷して反応を停止させた後、反応液を遠心分離し、遊離したヒスタミン量をShoreらの方法

P127, 182(1959))により測定した。すなわち、試料溶液2mlに1N NaOH 0.4mlを加え、強アルカリにした後、0.1ml OPT試薬(1% MeOH液)を加える。室温で3~4分反応させた後、3N HClを0.2ml 加え反応を停止させ、励起波長 360nm、蛍光波長450nmにて蛍光を測定した。次式

【数1】によりヒスタミン遊離抑制率を算出した。

A: 肥満細胞に被験薬物を共存させてヒスタミン遊離剤(Compound 48/80)を加えた時、上清に遊離したヒスタミンの蛍光強度

B: 肥満細胞に被験薬物を共存させてヒスタミン遊離剤(Compound 48/80)を加えた時、遊離せずに細胞内に残ったヒスタミンの蛍光強度

【0026】

【数1】

ヒスタミン遊離量(%) = $A / (A + B) \times 100$

【0027】(試験結果) キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出液は50%1, 3-ブチレングリコール抽出液を用い、その10%、2%溶液(1, 3-ブチレングリコール濃度はそれぞれ5%、1%)を用いた。

【表1】のように、ヒスタミン遊離剤であるCompound 48/80と比較すると、本発明のキク科ヒマワ

リ属 (Compositae Helianthus) * [0028]
 花卉抽出液は濃度に依存してヒスタミン遊離を抑制して 【表1】
 いる。 *

Sample Name	Compound 48/80	Compound48/80+ 10%花卉抽出液	Compound48/80+ 2%花卉抽出液
ヒスタミン遊離量 (%)	94.23	16.63	83.39

ヒスタミン遊離抑制試験結果

【0029】(試験2) 接触性皮膚炎抑制試験

接触性皮膚炎においては、抗原によって感作されたTリンパ球は再び同一抗原に接触すると、活性化されサイトカインを産生・放出し、マクロファージを活性化させ炎症反応を引き起こす。従って、再び同一抗原に対して起こる一連の炎症反応を抑制するような物質は遅延型アレルギー剤としての利用が期待できる。本試験では、製造例で得られたキク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出液の、マウスによるオキサゾロン誘発耳介浮腫反応に対するその作用の検討を行った。

【0030】(試験方法) 感作は、刈毛したマウスの腹部に0.5%オキサゾロン/エタノール液を100μl塗布した。感作5日後、キク科ヒマワリ属花卉抽出物が1.0重量%、オキサゾロンが0.5重量%になるようにアセトンで調製した溶液をマウスの耳介の両側に10μl塗布し、惹起した。耳介浮腫の測定は、惹起前と惹起24時間後にノギスを用いて測定した。なお、判定は惹起前と惹起24時間後の耳厚測定の差より膨張率を算出し、対照群との比較により浮腫抑制率を求めた。

【0031】(試験結果) キク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出物は50%1,3-ブチレングリコール抽出液を用い、その1%溶液(1,3-ブチレングリコール濃度は0.5%)を用いた。比較品として、0.5%ヒドロコルチゾン(副腎皮質ステロイド:接触皮膚炎抑制剤)と1.0%グリチルレチン酸ステアシルを用いた。

【表2】のように、本発明のキク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出物は、抗炎症、抗アレルギー効果を有する原料として使用されるグリチルレチン酸ステアシルと同等の効果を有していることがわかった。以上のように、本発明のキク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出物は、接触皮膚炎について抑制作用を有することが確認された。

* [0032]

【表2】

Sample Name	予割率 (%)
1.0% 花卉抽出物	17.5
1.0% グリチルレチン酸ステアシル	18.8
0.5% ヒドロコルチゾン	47.0

接触皮膚炎抑制試験結果

【0033】(試験3) 効果試験1

本発明の化粧料を実際に使用した場合の効果について検討を行った。処方例3のキク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出物を含む乳液について、乾燥ぎみの肌や湿疹、じんましん、アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患で悩む16~30歳の20名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例3の乳液の適量を顔面に2ヶ月に渡って塗布することにより使用テストを行った。対照には、乳液からキク科ヒマワリ属花卉抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3のごとくで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚の異常を訴えた者はなかった。

(評価基準)

有効: 湿疹などの炎症に伴う赤みやかゆみ、乾燥肌、肌荒れが改善された。

やや有効: 湿疹などの炎症に伴う赤みやかゆみ、乾燥肌、肌荒れがやや改善された。

無効: 使用前と変化なし。

【0034】(試験結果)

【表3】の結果より明らかなように、本発明のキク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出物含有化粧料及び皮膚外用剤の使用は、湿疹による炎症、かゆみ、乾燥肌、肌荒れなどの皮膚疾患の改善に対して、良好な効果が確認された。

【0035】

【表3】

試料	有効	やや有効	無効	合計
抽出物入り乳液	6名	3名	1名	10名
抽出物抜き乳液	1名	2名	7名	10名

乳液による効果試験結果

【0036】(試験5) 効果試験2

本発明の浴用剤を実際に使用した場合の効果について検

討を行った。処方例5のキク科ヒマワリ属 (Compositae Helianthus) 花卉抽出物を含む浴用剤について、乾燥ぎみの肌や湿疹、じんましん、

アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患で悩む、18～65歳の20名を対象に、2ヶ月間、必ず1日1回適量の浴用剤を溶解させた浴湯に入浴してもらい、使用テストを実施した。対照には、浴用剤からキク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は【表4】のごとくで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚の異常を訴えた者はなかった。

(評価基準)

有効：湿疹などの炎症に伴う赤みやかゆみ、乾燥肌、肌荒れが改善された。

10 【0038】

※やや有効：湿疹などの炎症に伴う赤みやかゆみ、乾燥肌、肌荒れがやや改善された。

無効：使用前と変化なし。

【0037】(試験結果)

【表4】の結果より明らかなように、本発明のキク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出物含有浴用剤の使用は、湿疹による炎症、かゆみ、乾燥肌、肌荒れなどの皮膚疾患の改善に対して、良好な効果が確認された。

【表4】

*

試料	有効	やや有効	無効	合計
抽出液入り入浴剤	3名	5名	2名	10名
抽出液抜き入浴剤	0名	1名	9名	10名

浴用剤による効果試験

【0039】

【発明の効果】キク科ヒマワリ属(Compositae Helianthus)花卉抽出物は、ヒスタミン遊離抑制作用、接触皮膚炎抑制作用などの抗アレルギー作用を有し、人又は動物に対して外用しても安全なものである。従って、ヒスタミン遊離抑制剤、接触皮膚炎抑制剤などの抗アレルギー剤として利用でき、湿疹、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症等の※

※各種アレルギー性疾患の予防、治療に有効的である。更に、あらゆる形態の製剤(医薬品類、医薬部外品類、化粧品類)への応用も可能であり、又、皮膚外用剤及び浴用剤として用いれば、アレルギー性の皮膚炎症(例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など)やアトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、更に、湿疹、肌荒れ、皮膚のかサツキ、かゆみなどといったトラブルを有する皮膚に対して、その予防及び改善を目的として使用することができる。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA111 AA112 AB032 AB312
AB352 AC012 AC022 AC072
AC092 AC102 AC122 AC182
AC242 AC422 AC542 AD042
AD092 AD262 AD272 AD512
BB51 CC02 CC04 CC05 CC25
DD23 DD31 DD41 EE10 EE12
FF01 FF05